

一般質問

町政の 今を問う!



4議員が9項目の質問を行いました。

ページ	質問者	質問事項
9	入口 誠 議員	<ul style="list-style-type: none"> ・町工事における官製談合事件の対策は ・天文公園再整備計画の概要は
10	山本 喜平 議員	<ul style="list-style-type: none"> ・入札制度の抜本的な見直しを ・法事トンネルの早期開通を ・連続する巨大風力発電にストップを
12	堀 辰雄 議員	<ul style="list-style-type: none"> ・本町の地震対策は大丈夫か
12	原 孝文 議員	<ul style="list-style-type: none"> ・能登半島地震の教訓から見た町の公的支援強化を ・林道日高中央線計画、5mの幅員は必要か ・船津の太陽光発電計画への町の対応は

1 町工事における 官製談合事件の 対策は

検討委員会を開催して
改めていく



入口 誠 議員

問 昨年の元副町長の逮捕に続き、今年の2月には建設課長が逮捕された。このことについての町長の思いを伺う。

職員を対象としたコンプライアンス研修を、去年から行っていると聞いている。どのような内容か。今後は、その内容充実が最も重要であると考えるがどうか。

事件の原因と究明、再発防止策に関する検

討委員会がいまだに開催されていない。どうしてか。

答 今回の事件では、町民の信頼を失墜させたことに、心からおわびをすることも、再発防止に最善を尽くしていく。

コンプライアンス研修については、外部講師を招き、公務員としての服務規律や倫理の遵守、業務及び組織の見直し等の内容でおこなった。令和6年度も違った角度での研修を予定しており、今後も続けていく予定である。

検討委員会について

2 天文公園再整備計画の概要は

「みんなが一緒に集まれる遊び場」をコンセプトに進めていく

は委員の選任で日程調整がつかず、遅れているが、4月初旬には開催する。そこでの意見を踏まえ、組織の在り方や入札制度の見直し等、改めるべきところを改めていく。



かわべ天文公園

問 天文公園の再整備について、予算とその他の概要を聞く。運営方法や安全性、維持管理費についても伺う。

答 今回の再整備は園にできないか伺う。「みんなが一緒に集まれる遊び場」をコンセプトとして進めている。まず、老朽化に伴う高圧受電設備の更新や駐車場の増設を考えている。遊び場として、

斜面を活用する複合遊具や滑り台、ふわふわドーム、健康遊具などの設置、また、多目的に使える人工芝のフットサルコートの新設やコスモポート内にプールを設置するとともに交流ラウンジの拡充も考えている。

維持管理は指定管理者がおこなう予定である。安全確保のため保守点検費が毎年90万円から120万円程度かかることを考えている。補修費用は5年目で30万円程度、10年目には更新のため1400万円程度必要と考えている。その後は5年ごとに45万円程度を見込んでいる。

入園料等で収益を求めるとは考えていないが、維持管理費用を捻出するための収益を確保しながらの運営を行いたい。

1 入札制度の抜本的な見直しを7月から新たな入札制度で



山本 喜平 議員

問 町長は、官製談合等再発防止検討委員会を立ち上げ、入札制度の見直しをするとしている。競争性、透明性、経済性を確保しなければ、行政への信頼は得られない。その観点から見るならば一般競争入札を原則とすべきではないか。

答 入札における競争性、透明性、経済性の確保は当然のことだ。それを重視した改善策となるように考えていく。官製談合等再発防止検討委員会については、委員が決まり次第速やかに開催する。委員会での意見を踏まえ、今年7月から新たな入札制度でやりたい。

一般競争入札を原則とすべきか、指名競争入札や随意契約を続けるのかは、委員会での意見を聞いた上での判断

地元や地域活性化の産業政策から、例外的に指名競争入札や随時契約も続けるのか。入札前に最低制限価格を公表し、職員への業者からの不正な働きかけを防止すべきでは。

断になる。
 随意契約については、特殊性、経済的合理性、緊急性を総合的に判断し、町のガイドラインに沿って実施していく。
 最低制限価格の公表についても、今回の改善策の一つである。

2 法事トンネルの早期開通を

令和8年3月完成を目指している

問 県道上初湯川皆瀬線法事トンネルは、老朽化対策工事のため、令和3年8月から2年6カ月間の全面通行止めとなっている。工事着手当初は、令和5年度に完了予定としていたが、天端の崩落と壁面の亀裂が発生し、令和7年度完了予定に延長されている。

答 法事トンネルは全長271メートルのうち、工が必要な区間は167メートルであり、そのうち工事が完了したのは60メートル、実施中が43メートルとなっている。工事区間の約61パーセントが完了もしくは実施中となっているが、まだ約60メートル残っている。

特に上初湯川地区から「早期復旧、開通を」との要望があがっている。

県担当部局では、令和8年3月完成をめざして工事を実施しているとのことだ。できるだけ早期の完成を働きかけていく。



法事トンネル

3 連続する巨大風力発電にストップを

事業者からの寄附金を活用している

に行われている。原発、火力を優先させる大手電力会社の需要調整によるものだ。風力はクリーンで拡大すべきとの主張は、現実的に実を結ばないものになっている。

目先の利益追求での乱開発や環境破壊を放置するなら、再生可能エネルギーへの大胆な転換を阻害し、気候危機も打開できなくなるのでは。

問 町が推進すべきは、住民生活に利用される電気を供給するための小規模な再生エネ設備への支援だ。

太陽光や風力による発電を一時的に止める「出力制御」が大規模

また、風力発電を町内で計画中の事業者から寄附金をもらっていることは、使い道はどうあれ、町の自主的な意見を発する妨げになり、問題ではないか。

答 出力制御については、関西電力のエリアでは、再生可能エネルギーの導入量が他の電力会社のエリアに比べ少なく、需要と供給のバランスがよいため

か、回数もほとんどないと聞いている。
 コスモエコパワーから町内の風資源の利用に伴う地域への貢献策として寄附金を受けている。町ではこれを原

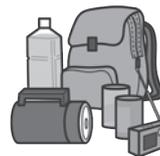
資とした家庭用LEDの導入補助をおこなっており、間接的に住民に対して再エネ設備による省エネ対策の支援としている。

施や補強、建て替え、廃校舎の取り壊しなど行っている。

また、住民向けの補助制度としては、耐震診断（無料）からの耐震改修補助をはじめ、地震時の避難の確保と通行人への安全対策としてのブロック塀の改修、家具の転倒防止対

策、感電ブレーカー設置補助などを行っている。

家屋の耐震化については、国、県、町合わせ1件につき限度額120万円の補助となっている。



1 本町の地震対策は大丈夫か

南海トラフ地震に対する備えを進めたい



堀 辰雄 議員

問 近い将来必ず起こるとされている、南海トラフ地震に備えて、町はどのような対策を取っているのか。

また、国・県の対策として補助や助成はどのようなものがある

のか。

家全体を耐震化するには、かなり費用がかかるが、家や身を守る工法や用品を多種に渡って補助すべきでないか。

答 防災センターの建設をはじめ、非常食や水、毛布などの備蓄を進めている。学校や庁舎など公共施設においては、耐震診断の実

施や補強、建て替え、廃校舎の取り壊しなど行っている。



備蓄している介護トイレ

1 能登半島地震の教訓から見た町の公的支援強化を

訓練などで不備な点を解消していきたい



原 孝文 議員

問 南海トラフ地震は被害が広範囲に及ぶことから、外からの支援は多く望めない。町からの公助、住民の自助での対応が中心となる。その際、行政がいかに自助を支援するかが問題となってくる。

過疎が進むなかで孤立集落への対応や水の確保など強化すべき点があるのでは。

避難所では、女性の視点に立った運営の重要性が今回の地震でも浮きぼりとなった。間仕切りの充実、男女別トイレや更衣室の設置等とともに、職員も3割以上女性を配置することが求められている。町防災計画での位置づけはできているか。

答 孤立集落との連絡手段は整えているが、訓練などにより、確認や操作方法の習熟を図っていきたい。

簡易水道の設置図面を集落に提示するなど、住民の力も借りて水の確保も図りたい。町では避難所運営マニュアルを策定しているが、女性の視点からのプライバシーや防犯面での対策に一層力をいれていきたい。

避難所には、一応女性職員を配置することになっているが、大規模災害時にはこれも難しいことも想定される。地域の住民や避難者を中心になつての運営も重視し、訓練などを通じて働きかけていきたい。

2 林道、日高中央線計画、5mの幅員は必要か

大型車両の通行が必要な路線と考えている

問 林業施業にとつて従来の4mの幅員でも十分ではないか。5mの白馬林道の状況を見ても、結局は風力発電事業のための道路になると考えているのは私だけではない。林業施業への効果でもって判断していくべきだ。印南町との境界は、

逆断層上で地質的に非常にもろくて急峻だ。このような地域への道路建設は、学術的に警告されているように、災害の危険上、よほど慎重な設計、施工が求められる。地滑りが起きない地質を選び、極力土を動かさないことが重要だ。4mと5m

では大きな違いがあるのでは。当地は、中紀地方における貴重な自然環境が残された場所であり、保護も重要な課題である。

答 低コスト化を図るため、木材や機械を運搬する大型車両が、安全かつ円滑に通行できる規格が必要な路線と考えている。木材生産効果も期待できる。地形、地質、気象や動植物の生息環境を十分に考慮し、路線設計をすることが必要と考えており、県とも協議を重ねていきたい。



San Pin 中津から見た太陽光発電計画地

3 船津の太陽光発電計画への町の対応は

許可要件の協議が進んでなく、県へも意見をあげている

問 林地開発の変更手続きで、不透明な部分が多くあり、町や利害関係者と協議が済んでいない事項が残されている。にもかかわらず、4月から工事を着工するというがどういうことなのか。

処理方法などで環境面の悪化の危惧をもつ。町としてどう指導していくのか。

この開発業者は、許可前に山林の伐採をするなど法の理解度が薄いように感じる。県外の他所でも問題を起している。業者の信用性を町はどう見ているのか。この計画は、法で定められた環境アセスメントをギリギリ逃れる申請となっているが、規模からして、雨水処理や土の移動量、立木

業者は「合同会社」の形式をとっており、資金や人数の規定はない。財務状況の公表も必要がなく、収益も不明である。町は、環境悪化の防止に努めるよう、県や業者に意見書を提出している。公害防止協定の締結も検討している。